

# 10月定例教育委員会会議録【概要版】

|       |                    |  |               |
|-------|--------------------|--|---------------|
| 開催年月日 | 令和7年10月22日（水）      | 場 所  | 市役所本庁 災害対策本部室 |
| 開催時間  | 13時30分 から 14時50分まで |  |               |
| 出席者   | 教育長                | 高森 賢一  |               |
|       | 教育委員               | 宮田 靖、久世由美子、甲斐千尋、遠田真央   |               |
|       | 参 与                | 丸山真二、池田元洋、岩佐正文、佐藤幸恵、岩切隆人、早瀬誠一郎、<br>吉田尚良、尾方農一、甲斐保孝、岡田健一、三村剛功、田中政秀 |               |

## ◎ 開 会

高森教育長が開会を宣した。（13時30分）

## ◎ 会議録の承認

9月24日（水）に開催された9月定例教育委員会の会議録が承認された。

## ◎ 事務報告

◆教育長より以下の業務報告が行われた。

- ・ 恒富中学校、浦城小学校訪問
- ・ 中体連秋季大会
- ・ 三川内小・中学校訪問
- ・ 南方小自主公開参加
- ・ 島野浦義務教育学校スポーツフェスタ
- ・ 小・中・義務教育学校長会
- ・ 東京学芸大学との打ち合わせ
- ・ 南浦地区地元説明会
- ・ 南中学校訪問
- ・ 学びの多様化学校（熊野江教室）卒業生と語る会
- ・ こども未来創造機構デザインスクール開講式
- ・ みんなのスポフェス
- ・ 第3回「未来へつながる」延岡市教育環境づくり全体検討会議
- ・ 北方学園学校訪問
- ・ 九州都市教育長協議会総会・研究大会
- ・ SAGA久光スプリングスホーム開幕戦激励応援

◆教育委員より以下の報告が行われた。

宮田委員) 教育長の報告にもあったが、今回は三川内小中学校の学校訪問に参加させていただいたので、感想をお話したい。小中一貫校としてスタートしてちょうど10年が経過して、また特認校制度を利用した児童生徒の受け入れをしている学校であるが、小規模校として、また、地域に根差した学校としての特色を十分に生かされた教育活動が実践されていた。特に、小中一貫校ということで小学校1年生から中学校3年生まで、9年間を見通した中できめ細かな指導がなされていた。そして、個に応じた学習指導や、理科の実験も見させていただいたが、そういった実験など、具体的な学習活動が多く保障されているということで、一人一人の児童生徒の学習効果に十分繋がっているのではないかなあと思う。何と云っても、先生方と子どもたちとの繋がりがとても強くて、安定した教室の環境の中で学ぶことができている点が素晴らしいなと感じたところである。反面、そういった良いところもあるが、中学校の授業も見させていただいたが、2名と3名という生徒の中での授業で、個に応じた指導がしっかりできるということ、また、理解に応じた指導もできるという確かなメリットはあると思うが、やはり、多様な考えや意見を出し合う、互いに学び合う、そういった経験が、なかなかやっぱりしづらいのかなあってというような感想を持った。先生方もいろいろと工夫をされているようだが、そういった人数の少ない中での指導の難しさという部分もあるのかなあと思う。その中で、やはりこの地域に根差した学校ということで、児童生徒の社会性の育成ということで、地域を巻き込んだ学校の行事が多く計画されて実践されていたようだが、やはり学校の特色を生かした創意工夫を凝らして学習活動を行いながら、子どもたちの成長につなげていこうとする学校の努力を感じることができた学校訪問だったと思う。

久世委員) 9月29日に西階中学校の学校訪問に行かせていただいた。そのとき感じたのが、中堅の先生方が、若い人たちも皆すごく引っ張っていつていうか、音頭をとって、そしてそこで先ほど教育長が言われたようなジグソー法など、そういう勉強の仕方をやっているんだってということをお話されて、面白そうだなあと思って見ていたら、本当に真剣に生徒たちが取り組んでいる姿がすごくよかったなと思う。それから10月9日は国スポの取材とポスター作りなど、いろんなことに参加させていただいた。10月15日の北方学園の学校訪問については、自分の体調が悪くて参加できなくて大変申し訳なかった。10月18日は国際ロータリークラブで講演をさせていただいて、1時間ほどで、あっという間に終わったとい

う気持ちで帰ってきた。19日は須美江カップのオープンウォーターの大会に顔を出させていただき、初の延岡での大会だったので、改善する点は多々あると思うが、第1回目にしてはすごくよかったんじゃないかなって感じた。私も1年半ぐらい携わったので、何か懐かしい感じで見させていただいて、本当面白いというか、楽しい感じだなんていうふうに見させていただいた。

遠田委員) 9月25日に某中学校の学校訪問に行った。結構問題のある子どもがいるっていうことだったが、行ったときはそんなには大きく問題がありそうな感じはなかった。ただ1つ、ちょっと印象的だったのが、発達障害の子がいて、その子が最初は周りの理解がなく、授業中ちょっとうるさくて集中できないとか、そういう声が結構出ていたらしいが、ある程度周りが分かってきて、そういうものだっていう感じで理解した上で、同じクラスで授業を受けていた。周りが理解することで、許せるというか、そういう周りの人たちも変な感じで接することのない環境ができるんだなあと思ったのと、その子が、今後どういうふうにな大人になっていって、どういう仕事をしていくのかなっていう、心配ではないが、そういうことがちょっと気になった。そういう子たちが活かせるような場がたくさん今後出てくれば理想かなと思った。また、最近高校生がサーフィンを始めて、この前、どういう先生がいいかって聞いてみたら、みんなに平等に接してくれる先生って言っていた。その子も怒られたりするのは全然しょうがないって思っているみたいで、ただ、あの人には怒るけどこの人には怒らないとか、そういう不平等な、ひいきをしている感じの先生は嫌いだって言っていたので、それはそうだなと。難しいかもしれないが、そういうことを意識して、先生たちも気をつけるといいんじゃないかなと思った。最後に、息子が方財小学校なので運動会に行ってきた。方財小は全校生徒が多分25人ぐらいだと思うが、少ない分、保護者や地域の高齢者の方が出る競技もあって、地域全体で盛り上がっている感じがすごい印象的で、僕も参加させてもらったが、一緒に楽しめた。息子が今年度小学校卒業なので、いい思い出になった。

甲斐委員) 9月26日に浦城小学校へ学校訪問に行った。深田校長を始め、先生が6名、児童数が3名、小規模特認校ということで、校区外の児童が2名在籍している。見ていて非常に感心したのは、1対1の児童との授業で、先生がとても気が長くて優しく、自分だったらどうしようかなっていう、そんな感じを逆に思って、教えることってというのは本当に難しいなと思った。10月10日には南中学校に行った。南中学校は442名で創立77年っていう歴史を持っている。大勢の生徒がいるところの方が見る側も気が楽に行けるなと思って、小規模のところはちょっと緊張した。特

認校という性格的なものもあるが、校区外から2人、浦城の学校まで行くっていうのも保護者は送り迎えも大変だろうなど。近くに特認校で行けるところがあったら、随分楽になるんじゃないかなっていうものと思うことがあった。何でもそうだが、教育ってというのは難しいなと思った。

高森教育長) 遠田委員が言われた発達の遅れのある子どもの周りの子どもたちの指導は非常に大事。その子たちの成長の機会にもなると考えているので、事務局としてもしっかりやっていきたいと考えている部分である。

#### ◆各課からの事務報告

- 学校教育課長から、10月7日の第1回アウトリーチ懇談会や9月期の生徒指導に関する状況等について、教育政策課長から、10月14日の第3回「未来へつながる」延岡市教育環境づくり全体検討会議について報告があった。

◎) 第3回「未来へつながる」延岡市教育環境づくり全体検討会議で出た意見について伺いたい。

⇒) まず1回目の検討会議では、子どもの数が減っている中で、施設の維持管理等の費用は上がり続けている、そういった延岡市の教育施設や給食調理場の課題をまずお伝えした。2回目は、その課題をもとに、延岡市の教育にふさわしい施設についてグループワークをしていただき、そこでいろんな意見を出していただいた。そこで出てきたいろんな意見では、地域との繋がりや統廃合、交流など、いろんな意見が出され、その意見を集約したものを事前に委員へ送ったうえで3回目を開催した。3回目の会議では、意見を集約したものをもとに、具体的にどんな形の施設がいいのかということについて、グループワークで協議していただいた。その中では、学校の数が多いので、ある程度まとめたほうがいいのではないかであるとか、例えば交番を学校の中に入れたほうがいいのではないかとか、公民館やいろんな公共施設もまとめて、1つの学校を中心として地域を取り入れるとか、そのような意見があった。

◎) アスリートタウン推進課の事務報告に、いろんなプロのラグビーやサッカーなどのチーム名が出てくるが、現状や、合宿誘致などの今後の活動について、少し詳しく教えていただきたい。

⇒) この報告書にも書いているが、本市ではプロ、アマチュア、学生を含め、様々な合宿を受け入れているところだが、プロという括りで報告させていただくと、まず今月、明後日から、ジャパンラグビーリーグワンに所属する静岡ブルーレヴズというチーム

が、これは7年連続7回目になるが、11月1日までの日程で、西階公園の球技場を会場に合宿をすることになっている。また、サッカーJリーグ、今はJ2に残念ながら落ちているが、仙台に拠点を置いているベガルタ仙台が、こちらは来年、26年連続27回目となる合宿を1月8日からの予定で今準備調整を進めているところである。また、このベガルタ仙台に引き続き、女子サッカーのプロチームで、女子サッカーWEリーグに所属する、こちらと同じく仙台に拠点を置くマイナビ仙台レディース、こちらが来年で5回目となる合宿を予定しているところである。また先ほど教育長からの報告でもあったSAGA久光スプリングス、こちらはバレーのSVリーグに所属するチームで、今年初めて6月に、体育館が新しくできたというものもあるが、受け入れを行ったところである。また合宿というわけではないが、大会・試合ということで、11月の1日、2日には卓球のTリーグ、こちらは3年連続で3回目で、プロの試合が、アスリートタウン延岡のサブアリーナで開催をする予定になっている。また、今、西階公園野球場を建設中だが、プロ野球の、今現在宮崎県内で行われている2軍のみやざきフェニックス・リーグ、こちらの会場となるべく、今実行委員会に入って、日本プロ野球機構に対して要望活動を行っているところである。今後については、今、県体育館「アスリートタウン延岡アリーナ」が今年度の3月末に完成する予定なので、それを踏まえて、県と合同で、バスケットボールBリーグ、また、その他バドミントンやハンドボール等の合宿誘致を目的に、今一緒に誘致活動を行っているところである。

- ◎) 図書館の事務報告にある10月11日(土)の行成薫さんの講演会について、私も参加したが、これについての実施状況、工夫したことや参加人数などについて伺いたい。
- ⇒) 当日の参加者が126名。応募は138名で10名ほど少ない人数であったが、会場はほぼ埋まった。内容については、先生と事前のやりとりをする中で、質疑応答をちょっと多く入れたらどうかという話があったので、その辺気をつけて、質疑応答を、事前に伺った質問に答えるという形の時間をとったところ、今、アンケートのとりまとめをしているが、その点についてはこれまであまりない企画だったのでよかったという感想をいただいている。
- ◎) 私もあのやり方が面白かったなと思って、事前に参加希望者から質問をいただいて、それを講師に送って、講師はそれをもとにプレゼンも作ってきていた。それを見せながら質問に答える形

で、面白おかしく答えてくださったり、このやり方は面白いなあと思ったところであった。今回は大人向けであったが、子どもたち向けで、何か応用できるといいなあと思った次第である。

## ◎ 議 事

### ◆議案第 20 号 教育委員会職員分限懲戒委員会規程の一部を改正する訓令の制定 (教育政策課)

- 教育政策課長より、規程にある副市長に関する事項について、市長部局の規程と合わせるための改正について説明が行われ、異議なく承認された。

### ◆議案第 21 号 令和 7 年度延岡市社会教育功労被表彰者の決定 (社会教育課)

- 社会教育課長より、令和 7 年度延岡市社会教育功労表彰の候補者について説明があり、異議なく承認された。

### ◆議案第 22 号 教育委員の辞職 (教育政策課)

- 久世由美子委員除斥後、教育政策課長より、久世由美子委員から令和 7 年 12 月 31 日をもって辞職したいという申し出があったことについて説明があり、異議なく承認された。その後、久世由美子委員から挨拶があった。

## ◎ 協議事項

### ◆移動図書館の現状について (図書館)

- 図書館長より、下記のとおり説明を行ったのち、協議を行った。

○図書館は利用したことがあっても、移動図書館は利用したことがないという方は結構多いのではないかと思います。今回はその移動図書館についての現状と課題について報告する。移動図書館は、簡単に言うと改造したトラックやバスに本を積んで図書館サービスを行う、出前図書館である。本は読みたいけれども、最近図書館に行くのが大変だから、足が遠のいているというように、物理的な障がい克服できれば、図書館を利用してもらえる方も多数いる。その問題の解消方法の代表的な手段が移動図書館である。移動図書館は一度に積載できる本数が少ないので、常に利用者の要求に沿ったものをそろえていくためには、図書館の職員が持っていく本の選別をきちんと行う必要がある。どういう著者や本が人気なのか、書店やテレビやネットの情報をチェックしたり、雑誌とかの書評を見たり、あとは巡回場所ごとに利用される年齢構成を考えたり、いろいろ考えて運用をしている。

○延岡市の移動図書館には、旧延岡市内と北方地区を巡回している「ふくろう号」と、北川地区、北浦地区を巡回している「せせらぎ号」の 2 台がある。ふ

くろう号は本館の所管、せせらぎ号は北川分館の所管となっている。

○移動図書館ふくろう号は、旧延岡市内と北方地区を巡回しており、幼稚園、小学校など、34ヶ所を原則2週間に1回の周期で巡回している。ただし、島浦と北方地区については年6回の巡回としている。移動図書館の機動力を生かして、遠隔地や図書館への来館が困難な市民や学校へ貸し出し等のサービスを実施している。現在のカルチャープラザのべおか図書館が開館した平成9年2月から4ヶ月後の平成9年6月に運行を開始した。移動図書館の車の当時の購入価格は1205万2000円であった。乗車人員は3人、積載冊数は最大で3000冊で、車椅子の利用もできるようにリフトも用意されている。書架が車両の内側両側に2ヶ所、車外にも両側2ヶ所に設置されている。資料の一番右の写真がリフトをおろした状況。そこに車椅子を乗せて上に挙げて中に入れていただくことができる。

○ステーションの様子について、資料の上の写真が上南方小学校、下が桜園集会所。ちょっと人数は集会所のほうが少ないが、ぱらぱらと人が来て、みんな本を選んでいただいているところ。

○ふくろう号のステーションでの地域別利用者数について、平成9年開始当時のステーション数は22ヶ所であったが、現在は34ヶ所となっている。令和6年度は、夏休みや資料整理期間を除くと、延べ583回ステーションを回っており、1ヶ月当たり500人から600人の利用があり、年間だと約6000人の利用がっている。このステーションでは、貸し出しや返却、利用カード申し込みや、この本が欲しいというリクエストの受け付けとか、レファレンスといって、利用者から本に関する質問を受けるということをしている。この本に関する質問というのが、読書感想文の本はどういう本がいいのかとか、あとは時代小説が読みんだがなど、そういう質問を受けたら、職員がこういう本があるよとか、次に回ってくるときに揃えて持ってきますねとか、そういうことをしている。ふくろう号については1ヶ所に約30分から40分滞在している。本の貸し出し数は10冊まで、返却期限は次回の巡回日までとなっている。

○移動図書館せせらぎ号は、北川地区と北浦地区を巡回しており、現在44ヶ所、原則2週間に1回の周期で巡回している。昭和55年に北川地区で運行開始、北浦地区では平成24年から運行開始した。平成25年の2月には一回り大きい車両に買いかえて、同年4月から新車両で巡回している。積載図書増加により、図書館サービスのさらなる充実を行った。以前使っていたのは1200冊だったが、現在は2500冊となっている。当時の購入価格は1060万5000円。乗車定員が2人、積載冊数は先ほど申し上げた通り2500冊で、ふくろう号と同じく車椅子の利用もできるようにリフトが装備されている。ふくろう号と大きく違うのは、ふくろう号は両開きだが、せせらぎ号の方は左側だけ開くということになっている。

○せせらぎ号の利用者について、資料の左側は北川地区、右側が北浦地区の集計である。こちらには載せていないが、北川地区の方が 2024 人と書いてあり、分館利用者が 3001 名だが、それに比べて 2024 人という、かなり移動図書館の利用数が多いという特徴があるが、もともと北川地区では、各地の公民館に文庫があり、それを利用していたという経緯があって、それを移動図書館にしたというのが昭和 55 年で、かなり歴史があるので、この移動図書館を利用するというのが完全にもう地域の人たちのサービスとして根づいているのではないかなというふうには思っている。せせらぎ号については、令和 6 年度は夏休みや資料整理期間を除いて、延べ 792 回ステーションを回っており、北川地区と北浦地区を合わせて 1 ヶ月当たり 200 人から 300 人の利用がある。年間では約 3400 人の利用がある。せせらぎ号のステーションでも、ふくろう号と同じサービスを行っている。1 ヶ所に 15 分から 20 分の滞在となっているが、これは平均しての利用者が少ないことからこういう時間設定となっており、学校や保育所についてはもう少し長い時間滞在している。

○移動図書館ふくろう号での活動内容、定期巡回以外のイベントでの活動内容について、5 月に行うこどもとしょかんフェスティバル、今年は 11 月 3 日に行う図書館まつりでは、図書館と内藤記念博物館の間にあるふくろう広場でふくろう号を開放して、ふくろう号で遊ぼうなどの企画を行っている。内容は、本の貸し出しや返却に加えて、簡単なクイズや塗り絵、記念撮影などを行っている。

○出張ふくろう号の活動内容について、令和 6 年度から新たに幼少期からの読書習慣を身につけるための読書啓発活動を主な目的として、定期巡回に支障のない日などに、この出張ふくろう号を実施している。運行日を指定して、定期巡回の対象となっていない市内の幼稚園、保育所、認定子ども園に、年度当初より募集案内を行い、申し込みのあった園等に訪問している。子どもたちの熱中症等の恐れがある 7 月から 9 月の期間を除いて実施している。内容は、ふくろう号の紹介やピクニックおはなし会、室内おはなし会、ふくろう号の見学、本の貸し出しとなっており、全体を通じて 1 時間ぐらいで実施している。園によっては、子どもたちが先生と一緒に出張ふくろう号で借りた本の返却のため図書館に来館するなど、図書館に来るきっかけや経験づくりになっているのではないかなと思っている。令和 6 年度は 7 回で約 260 名の子どもたちが参加した。ピクニックおはなし会というのは、外で本を読んであげるという企画で、環境が変わると、子どもたちも結構喜んで聞いていただいているということをしている。

○ふくろう号の今後の課題について、まず、車両等の老朽化の問題がある。令和 9 年度に経過年数が 30 年を迎えるが、購入の当初からシャッター付きの車庫に駐車しており、走行距離もまだ 16 万キロ程度で、外装などの見た目にお



いては問題ないように見られる。これまでも大きな部品交換等は発生していない。しかし、今後については、故障等で交換部品の調達が困難になるかもしれないので、車両の買い替えを考えた場合に、ハイブリッドなどの電動車で同等のものとなると 3000 万円ぐらいかかると聞いている。最近では軽トラベースで、積載冊数が 500 冊の車両で 600 万円というのも出ているが、どのタイミングで、どの程度の車に更新していくかっていうのは今から考えないといけない。数名の利用者であれば 500 冊程度でいいと思うが、ふくろう号もせせらぎ号も学校に行くので、やっぱり 500 冊では寂しいかなというふうになるので、個人的には現在と同程度の大きさは欲しいと考えている。

○続いて、ステーションの廃止と設置について、昨年度は北方地区において、利用者の来なくなったステーションについては、関係機関の社会福祉協議会や北方分館等と相談して、今年度から 1ヶ所変更を行った。単純に利用者が少ないから変更や廃止をするということにもならない。長らく使っていた方の楽しみをこちらの都合で奪うということも難しいので、ステーションの変更については苦慮しているところである。現時点で結構タイトにスケジュールを組んでおり、これ以上ステーションを増やすということも難しいので、今後は、より利用しやすい場所を検討して、変更、廃止、設置は考えていかなければならないと思っている。

○最後に夏期における職員の熱中症対策について、年々気温も上昇している中、ステーションによっては日陰のところもあるが、日陰がなく、アスファルトのところもあって、40 分程度の長い時間炎天下の中、利用者の対応を立っただけでしている。気温や湿度の状況によって職員の体調への不安がある。対策として、今年度は空調服の導入を試験的に行っている。着用した職員からは、体への負担が少なくなったというふうに聞いているので、来年度以降も考えていきたい。

○課題としては以上であるが、より利用しやすく、本に親しんでもらえるようにサービスを提供していきたいと考えている。移動図書館については、廃止される自治体が増えているが、延岡市のように非常に面積の広い、さらに山間部が多くて高齢者率も高い自治体については、図書館サービスを市内全域に利用していただくためには、この移動図書館は、今後も重要な事業であると考えているので、工夫をしながら運用していきたいと考えている。

- ◎) ふくろう号の利用者数について、例えば一ヶ岡中央公園とか、一ヶ岡の A 団地第 1 集会所前っていうのは結構利用されている人数が他のところに比べたら多いのかなっていう感じがする。このステーションを設置している場所っていうのは、元々どういった考えで設置されているのか伺いたい。

- ⇒) これは先ほど説明にあったように相当昔から決まっているので、経緯までは分からないが、現在、変更をかけるときなども、やっぱり地区の区長、その地域に住んでいる方といろいろ相談しながら進めているので、おそらく当時もそういった形で決めているのではないかなと思われる。ただ、今言われたような場所、市営団地の駐車場とか、車が大きいのでそういう広い場所を選定しているというのが1つの理由でもある。
- ◎) 図書館を利用できない人たちがこういう具合で結構利用しているってことは、本に親しむということはもちろんあると思うが、この移動図書館が1つの地域のコミュニティの場所になっているっていうようなことも十分考えられるのかなあと思うので、ステーション利用者の減少に伴って廃止するっていうような部分については、やはり慎重に考えていく必要があるのではないかなあと思う。
- ⇒) ご意見として承りたいと思う。
- ◎) 最大積載冊数は約 3000 冊っていう車の話が出たが、これが結構古くなってきていて、もし買い換えとしたら、ハイブリッド車だと 3000 万円だとか、軽トラックは 500 冊で 500 万ぐらい。例えば 500 冊だとしても、ある程度先に見たい本を皆さんに選んでおいてもらうことはできないのか。
- ⇒) それはできるが、とりあえず行ってみて決めようかっていう人も多い。その場合に 500 冊だったら見た目がやっぱりかなり少ない。それにジャンルがいろいろあって、小説だけで 500 冊っていうならいいが、絵本とか他の図鑑とか、そういうものを一緒に積んでいるので、ジャンル分けすると意外と少ない、自分が見たい本が少ないっていうことになるので、3000 冊ぐらいあると、ある程度満足していただけるのかなというふうに考えている。
- ◎) 例えば、5割の人が先に選んでおいたとして、あと5割が見て選ぶとする。その場合には 3000 冊だったとしても、500 冊だったとしても、見たい本がなかったとか、そういう確率ってそんなにならないのかなと思ってしまったのと、あとせっかくオンラインの図書館がある。あそこもうまく利用してもらいながら、あれを見てもらって、これが見たい、こうやってチョイスしてもらおうような。実際そのオンラインでは読みたくないけど、表紙だけでも見てもらって、チョイスしてもらって。多分将来的にはもうそっちになる。オンライン上の本とかになってくると、ゆっくりそっちに移行していくイメージで考えておいたほうがいいんじゃないかなと。予算的な考えで、そこまで余裕があるんだったらいいのかなとは思いますが。

⇒) まさにおっしゃる通りで、今までは紙が主だったのでこういう移動図書館でやっているが、オンラインが発達してきて、電子図書館を延岡市は始めたので、そちらの方に徐々に移行していくんじゃないかなというふうには考えている。将来的に今の子どもたちが大きくなった頃にはもう電子図書館ばかり利用するということになっているとは思いますが、今、過渡期なので。結構利用者の方や図書館に来られない方はお年寄りの方と小さいお子さんっていうのが利用者の主な年齢階層になるのかなと思うが、お年寄りの方はなかなか電子図書館は利用しづらいっていう面もあって、そういう方について大型活字ものとかいうのをそろえて、読みやすくしているという面もある。今委員が言われたようなやり方については、今後、うちの方で利用者と話して研究していったって、最適な方法を見つけないかと思っており、貴重なご意見として持ち帰りたいと思う。

◎) 先ほど報告のあった未来へ繋がる延岡市教育環境づくりの会議の中でも、施設の統合というような話があった。学校図書館とか、先ほどコミュニティの面もあるという意見や、読書だけではなくて音楽と合わせてとか、お菓子づくりとその場で一緒にとか、そういったのもできるかもしれない。面的にいろいろ考えながら、予算的なことも考えながら考えていきたい。今の状況は非常に読書のアウトリーチっていうか、充実に繋がっているのかなあと思う。もしこれがなければ、他の自治体ではなくなっているところもあり、市民の読書量も変わってくるところがあると思うので、ありがたいと思っているところである。

## ◎ その他

### ◆11月定例教育委員会の日程について（教育政策課）

- 11月定例教育委員会については、11月19日（水）の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

## ◎ 閉会

高森教育長が閉会を宣し、終了した。（14時50分）